

徳本念仏塔

平木を歩く

路傍ろぼうや墓地などにある石仏や石塔に刻まれた文字からいろいろ知ることができます。

現在、平木・山里コミュニティセンターの建つ場所は、かつて円蔵寺（廃寺）がありました。そこに隣接する路傍の石塔の中に、自然石に「南無阿弥陀仏 徳本」と刻まれたものがあり、徳本念仏塔、徳本名号塔、徳本供養塔などと呼ばれています。

徳本については『浄土宗大辞典』などによると、1758年に現在の和歌山県で生まれ、浄土宗の僧侶として近畿・北陸・信州・関東などで

広く布教活動を行ったとされています。活動した村々には、念仏講中により特徴ある独特の書体の「南無阿弥陀仏」（六字名号）が刻まれた石塔が残されています。

旧八日市場市域では、4基の徳本念仏塔が見つかっています。調査当時、徳本の行動や石塔の造立経緯について分かりませんでした。平成14年刊行の『千葉県の歴史 別巻 民俗2（各論）』に銚子での活動が詳しく紹介されています。

1814年徳本は江戸に出て、小石川伝通院に在住して

いた1816年に小見川（香取市）の寺の招きて下総国を訪れました。この時、求めに応じて13の寺や信者に名号を与えた中に「吉崎村」も含まれていました。

その後銚子にも招かれ千人塚で念

仏回向えこうを行いました。同年4月21日に銚子をたち飯岡村、網戸村（ともに旭市）、東小笹村、吉崎村（ともに共興地区）を通り、野手・龍蔵院（野田地区）で休んだ後、その日のうちに木戸・光泉寺（横芝光町）に着きました。同寺での活動には上総国、安房国などからも信者が集まったとされます。木戸から鐺木・光明寺（旭市）に向かう途中、八日市場・西光庵（中央地区下出羽区の会所）に立ち寄り、ここにも多くが詰めかけたといえます。

徳本は下総巡歴を終え江戸に戻って程なくして、1818年10月6日に61歳で亡くなりました。

市域に残る4基の念仏塔のうち「春海村元組講中」の塔は同年3月、東谷・安養寺境内の塔は命日の、吉崎の塔は翌年3月の年号が刻まれています。

平木・山里集落路傍の塔は、やや遅れて1822年11月の造立で、市域での徳本の足跡を伝えています。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080

平木・山里集落にある徳本念仏塔

